

# 種まき 通信No.61

いつも市民派 ずっと無党派  
小林じゅん子 議会だより

事務所 〒399-8301長野県安曇野市穂高有明2104-10  
Tel. 0263-83-4387 (090-4546-3496) Fax. 0263-83-4938  
<http://junko.voicejapan.net/> メールはjunko@childnet.ne.jp



発行日：2017年11月10日  
発行者：小林純子

## ◆安曇野市議会議員選挙、定数22に26人立候補◆ 小林じゅん子は13番目 1,943票で当選

小林じゅん子は得票数1,943/13位当選することができました。引き続き議会で発言し仕事ができる、この重みと喜びを噛み締めているところです。

今回、私は5度目の選挙となりました。03年の穂高町議選で初めて当選し、合併後の05年には安曇野市議会議員として当選。今回は4期目を目指す選挙となりました。

前回の選挙で立候補者数29人で分け合った5万票を、今回は26人で分け合いました。平均して各自1割増しになっていいところ、小林じゅん子は12票の減でほぼ変わらず。

穂高地域では立候補が新人を含め11人となり、選挙区選挙ではないとはいえ、地域候補にこだわる傾向は強く、たいへんな激戦区となりました。そんななか、今回も選挙カーを使わず、街頭演説を中心にしてという基本は変えずに選挙に臨みました。

小林じゅん子は最初の立候補の時からインターネットを使いホームページで活動報告をしてきました。並行して「種まき通信」など紙媒体の情報発信も欠かさず、また市民と対面して交流する学習会や市政報告会も重ねてきましたので、選挙のときだけ名前やスローガンを連呼するような選挙には疑問を感じてきました。

日頃の政治活動、議員活動の情報発信の方がより重要です。それによって候補者のメッセージを有権者に伝え、気付きや共感呼び起こし「わたしたちの安曇野」のくらしに関心をもってもらうこと、それが4年に一度の選挙につながると思っています。

というわけで、いつものことですが、支持母体がないので票読み困難のため、いつも開票時はハラハラ。何とか前回票に変わらぬご支持をいただいたというこ

とで、感謝の気持ちでいっぱいです。これを励みに、第4期の新たな議会でも、しっかりと活動していきます。

これからが本番、「いつも市民派、ずっと無党派」の議員として市民目線を第一に働きます。今後ともご指導、ご支援よろしくお願いいたします。



## 安曇野市議選の結果から見えること

12年前の第1期市議選は、旧5町村の選挙区を残した争いとなった。各町村の基礎票がこれで大体わかる。2期目の有効総投票数は1期目より4,000票余り減り、3期目は更に3,000票弱減った。4期目は18歳選挙権により有権者数自体は前回3期より1,900人ほど増えているにもかかわらず、有効総投票数は増えるどころか541票減となり、回を重ねる毎に投票率が下がっている。共産党の新人を除く実質的な新人候補が4人と少ないうえ、高齢の現職候補が多く魅力に欠けたのも投票率低下の一因かと思われる。

定数が25から22へと3減したことで、最上位と最下位の当選者の票差2,442票→1,724票、得票数3,000票以上2人→1人、同2,000票以上5人→11人という現象がみられ、そして前回当選者下位2名が1,000票に届かなかったのだが、今回は落選した4人のうち2人は1,269と1,270票を獲得しながら議席を逃した。つまり、「団子レース」になったといえる。

もうひとつ、今回の選挙の特徴的な現象として、地元出身候補への投票行動が弱まりつつあることが見て取れる。地元票がかなりのウェイトを占めるのは歴然としているものの、明科は12年前の選挙で6,330票あったが、共産党議員が退いて2人になった4年前には5,811票となり、今回は2人で5,330票だった。

得票数のうち地元票が8割、他地域からの票が2割とすればもう1,000票近く

が減ったことになる。新人に穂高に住む明科生まれの候補者がいたことを差し引いても、「地元候補者に入れる」という昔ながらの決め事が崩れはじめてるように思う。同じような現象は堀金でも起きている。

一方、三郷の一部と豊科では、立候補者が減った為、前回より得票を伸ばした候補者がいた。特にめざましい議員活動されていたようには見えない方々なので、弱まりつつあるとはいえ「地元票」に救われたかたちだ。

穂高は11人が乱立したが、当選した現職で公党に属さない4人のうち3人は前回より350票前後の激減。当選者下位3人は穂高、落選者4人のうち3人が穂高といった具合に苦戦の様相がはっきり出た。これは地元票頼みの選挙戦に固執したものの、地元からの評価が得られなかった結果ではないか。

今回は引退が予想された現職が、ほぼ全員出馬し21人にもなった。新人はわずか5人で、内1人は共産党なので実質4人。その内2人が最上位と最下位で当選。残り2人は惜敗と惨敗に分かれた。

4年後の選挙では、引退する高齢議員が多数となることが予想され、新人が増えるのではないかと期待がふくらむ。ある程度ベースとなる票は地元へ頼るのだろうが、これからの選挙は地元票だけでは当選ラインに届かない、ということを知っておくべきだろう。

(小林じゅん子後援会 会長 諫山 憲俊)

# 種まき通信No.61

「種まき通信」の郵送を希望される方は電話・メール等でお申し込み下さい。  
◆「種まき通信」は年4回発行しています。そのうちの1回は新聞折込にてお届けしています。毎号の郵送をご希望の方はお申し出ください。

この数字は？

28>25>22へ

## 安曇野市議会の議員定数

こんなに減らして大丈夫？

どこの自治体でも、議員定数の削減が叫ばれる昨今ですが、それは市民の目から見て議会が何をしているのかわからないから、一人ひとりの議員が何をしているのか見えないから。そこへもってきて、全国的に議員の不祥事があとを絶たず、不信感だけが増したことにも原因があるのでは？

ですから、議員の資質の向上にも目を向けていかないと、ただ定数を減らすだけでは市民のためにならないと思います。

## 第四期安曇野市議会 新たにスタート

◆小松洋一郎議長 ◆内川集雄副議長

### 各委員会の構成（敬称略）

#### ◇総務環境委員会

委員長 山田幸与 副委員長 小松芳樹  
委員 臼井泰彦 宮下明博 平林徳子  
小林純子 内川集雄

#### ◇福祉教育委員会

委員長 竹内秀太郎 副委員長 松枝 功  
委員 小林陽子 林 孝彦 中村今朝子  
平林 明 猪狩久美子

#### ◇経済建設水道委員会

委員長 召田義人 副委員長 藤原陽子  
委員 遠藤武文 坂内不二男 井出勝正  
一志信一郎 増田望三郎

#### ◇議会運営委員会

委員長 小松芳樹 副委員長 召田義人  
委員 遠藤武文 山田幸与 松枝 功  
竹内秀太郎 猪狩久美子 平林徳子

#### ◇議会広報特別委員会

委員長 林 孝彦 副委員長 井出勝正  
委員 小林陽子 臼井泰彦 遠藤武文  
松枝 功 増田望三郎 藤原陽子  
小松芳樹 召田義人

### 各会派の構成（敬称略）

■清政会（7人）小松 洋一郎 宮下 明博  
召田 義人 竹内 秀太郎 山田 幸与  
一志信一郎 林 孝彦

■政和会（6人）平林 徳子 内川 集雄  
松枝 功 小林 陽子 坂内 不二男  
遠藤 武文

■公明党（3人）

小松芳樹 藤原陽子 中村今朝子

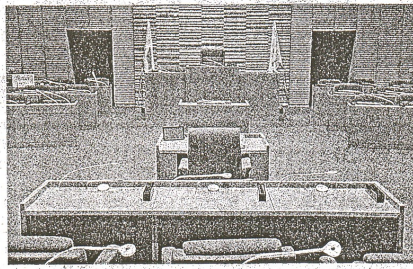
■共産党安曇野市議団（3人）

猪狩久美子 井出勝正 臼井泰彦

■無所属議員（3人）

小林 純子 平林 明 増田 望三郎

## テレビ中継「映るのが苦痛」



空席とすることが決まった演壇の後ろの3席

カメラが向けられるたびに映り込むのが「精神的に苦痛」との声が多いのが理由で、議論の末、3席は空席扱いにすることになった。改選に伴い議員数は25から22に減つてきた。議場の中央部の席が空いた状態になるが、マイクを外すなどできるだけ目立たない配慮を検討するとしている。（長尾浩道）

## 議場演壇の後ろは空席に

安曇野市議会の会派代表者の配置が議論となった。焦点となったのは、質問者が立つ中央の演壇のすぐ後ろの3席を重視し、議場中央に議席を選んだ議員に割り当てる議席だ。「テレビ中継で質問者に選んだ議員に割り当てる議席だ。」「テレビ中継で質問者に選んだ議員に割り当てる議席だ。」「テレビ中継で質問者に選んだ議員に割り当てる議席だ。」

## 議場演壇の後ろは空席に

テレビやネット中継で「映るのが苦痛」これに対し市民からは「ばかばかしい。そんなことが苦痛なら、議員にならなければいいのに・・・」の声も  
平成29年10月27日 市民タイムス記事

これまで長きにわたって、議会は市民の無関心をよいくことに、半ば眠っていました。（居眠り議員が多いということではなく、議会としての機能を、十分に果たしてこなかった、という意味です。）

新庁舎の設計段階で、議場のしつらえをどうするか議員で考えたことがありましたが、意見を出したのは私を含め2～3人だけでした。

私は、議員の表情が傍聴席からもよく見えるように、両サイドに傍聴席を設置すること、議長席は階段昇るほど高くしないこと、託児室を作ってほしい等々、注文出しましたが、実現したのは託児室だけ。自分たちの仕事場なのに、その設計に対してあまりの無関心に驚いたことを思い出します。

議会公開の原則から、傍聴席は非常に重要なものです。議員の仕事場であると同時に、市民参加の場であり、市民の代表である議員がしっかり働いているか評価される場でもあります。

にもかかわらず、安曇野市議会の傍聴席は、着席してしまうと議員の姿はほとんど見えないという、とんでもない傍聴席です。これはどう考えても「設計ミス」。議場と傍聴席の仕切りを透明なアクリル製のものに変えとか、議員の顔が見えるように、議場正面にモニター画面を設置するなど、改善が必要だと思えます。

ネット中継のカメラの問題では、一般質問だけは固定カメラですが、そのほかの議案説明や議案質疑、最終日の質疑、討論、採決などは、発言者に合わせてカメラは動きます。映り込む人もそれぞれです。（これまで質疑、討論最多のM議員の隣にいて、わたしもずいぶん映してもらいました！）

タイヘンといえば発言の多い市長の周りも同じです。市側が「市長の周りには空席にします」と言ってきたら、議会側は「そうですね、どうぞ」と言うのでしょうか。

議会に入って「議会ムラ」の一員になると、身内感覚になってしまっ互いに馴れ合い「このぐらいいいでしょ」「まあいいか、お互いさまだもんね」で、易きに流れていくことが多いのです。議員だけでなく、「職員さんもタイヘンね、市長の周りも空席にしましょう」というなら、まだ許せる気もしますが、そんなふうになった議場は空々しい感じでしょうね。

これまでの12年間は、映るのは当然のこととしてやってきたのに、「たいへんだよね、もうやめちゃおうよ」というのでは、市民に対する責任というものがあったく感じられませんか。議席に着けることの重さを自覚しなければいけないと思います。

